

甲賀市図書館の評価

使命「だれもが集い、であい、学ぶことのできるみんなの図書館」

サービス計画に基づく事業体系	評価の指標	実績(H29)	実績(H30)	実績(R1)	目標(R5)	自己評価	図書館協議会委員の意見	外部評価
(1) 地域の情報拠点として、市民に役立つ身近な図書館								
①甲賀市独自の魅力的で豊かな蔵書づくり						B	1. 地域資料の受入点数が年々減っている。後世に残す貴重な資料であるので	B
1. 地域の特性を活かし、ニーズに応える	貸出冊数 開架資料更新率	654,239冊 4.52%	641,533冊 4.38%	641,394冊 4.01%	611,000冊 4.50%	B	積極的に受け入れること。	
2. 多様なメディアの収集	受入雑誌タイトル数 視聴覚資料の受入点数	271種 192点	269種 286点 雑誌スポンサー制度の運用開始	263種 174点	270種 190点	B	2. 受け入れた地域資料はスムーズに開架に出すこと。 3. 課題解決支援のための資料については、アンケートなどにより収集する資料	
3. 地域資料の体系的な収集・整理	地域資料の受入点数	657点	421点	367点	500点	C	の対象や課題を明確にし、目標値を決め収集されたい。実績が「積極的な収	
4. 課題解決支援のための資料収集		積極的な収集	積極的な収集	積極的な収集		C	集」だけでは評価ができない。	
5. リクエストサービスの充実	予約・リクエスト受付件数	45,792件	46,937件	51,216件	46,000件	A	4. 今後も安定した資料費を確保すること。	
6. 安定した資料費の確保	受入冊数 資料費	16,156冊 30,191千円	15,286冊 29,980千円	13,700冊 27,029千円	15,500冊 28,900千円	B	5. 内部評価の「8割以上、8割未満」の基準を見直すこと。	
②レファレンスサービスの充実						C	1. レファレンス受付件数をしっかりと記録しカウント漏れをなくすこと。	C
1. レファレンス事例の収集・活用	レファレンス受付件数	8,334件	6,664件	7,124件 館内レファレンス研修実施	12,000件	C	2. レファレンスの活用が見える評価基準の設定が必要。	
③図書館の利用が困難な人への支援						B	1. 「サービス提供のための環境整備」を評価するとき、対面朗読の実施だけ	B
1. 遠隔地域への積極的なサービス提供	地域ポイントの平均利用者数 地域ポイントの平均貸出冊数	15.8人 101.3冊	16.5人 99.3冊	20.4人 117.7冊	16人 100冊	A	では項目が少ないため正しい評価ができない。「図書館の利用が困難な人」	
2. 活字資料の利用が困難な人のための資料と機器の整備	大活字本受入冊数 郵送貸出	194冊 22回/33冊	179冊 22回/32冊	207回 18回/24冊		B	とはどんな人なのかを考え、指標項目を再考すること。 2. 「サービス提供のための環境整備」の内部評価はCであるが、対面朗読を	
3. 日本語を母国語としない人のための資料の整備と充実	外国語資料の受入点数	83点	73点	68点		B	継続して行っているのでB評価と考える。	
4. サービス提供のための環境整備	対面朗読の実施	対面朗読の実施	対面朗読の実施	対面朗読の実施		C	3. 外国語を母国語とする人へのカウンター対応を考えておくこと。	
(2) 本と人、人と人がであり、新たな交流の場となる図書館								
①学びと交流の場の提供						A		A
1. 講座・教室の開催	行事イベント開催回数	41回	55回	607人	610人	A		
2. 市民交流参加型イベントの開催		11回(図書館まつり、ビブリオバトル、クイズでめぐる絵本のたび、忍者関係行事・エコ・プロジェクト)	9回(図書館まつり、ビブリオバトル、まるわかり！読書通帳、エコ・プロジェクト)	8回(図書館まつり、図書館ラリー、ビブリオバトル、エコ・プロジェクト)		B		
3. 生涯学習活動の支援	施設の利用回数	287回	237回	311回	310回	A		
②利用促進のための広報活動						B	1. 土山地域の小学校で、新1年生に移動図書館の使い方を説明されている	B
1. インターネットの積極的な活用	ホームページアクセス件数	3,006,475件 メールマガジン配信開始	5,502,648件 メールマガジン配信	2,306,425件 メールマガジン配信、インターネットサービス機能強化	3,160,000件	A	が他の地域の小学校にも広げようように検討すること。	
2. テレビ・文字放送など活用した広報		イベント時での活用	イベント時での活用	イベント時での活用		C	2. 「テレビ・文字放送など活用した広報」については、内部評価ではCで	
3. 図書館の使い方講座の開催	使い方講座の開催回数	3回(ホームページ使い方講座・小学校2回)	3回(利用者への講座・小学校2回)	2回(小学校)		C	あるが、あいコムここの放送でイベントの告知や、イベントの様子を	
4. 館外での広報活動		各種広報ポスターの館外設置、イベント参加3回	各種広報ポスターの館外設置、キャンプ参加者用ブックリスト作成、イベント参加2回	各種広報ポスターの館外設置、		B	放送しているのでB評価と考える。	
③だれもが快適に滞在できる施設の整備						B	1. 「必要な修繕の実施」については、内部評価ではAである。図書館では	C
1. 居心地のいい空間の創出		YAコーナー増設(土山)カウンター前書架レイアウト変更(甲南)	大型絵本架設置、絵本架一部変更(水口)表紙見せ絵本架設置、書架レイアウト変更(甲賀)	自由学習スペースの設置(水口)書架レイアウト変更(甲賀)絵本架増設(甲南)布絵本しがらみマップ設置(信楽)		B	緊急性の高いものから修繕されているが、未だに修繕されていない箇所も	
2. 案内表示の改善		棚側面分類表示変更(水口)ラベル変更による表示改善(土山)新刊コーナー・夏休み特集コーナーの変更(甲南)	読書通帳展示コーナー更新(水口)	全館統一サインの設置開始(全館)、料理・医療コーナー見出し更新(信楽)		B	多い。修繕費の予算確保に努められたい。	
3. 必要な修繕の実施		玄関前タイル、自動ドア修繕、空調設備修繕(水)トイレ、屋根修繕(土山)トイレ、自動ドア修繕(甲賀)汚水処理施設修繕(信楽)	空調設備修繕(水口)エレベーター機能維持修繕(甲南)多目的シャワートイレ修繕(信楽)	屋上防水工事(水口)ブロック塀更新工事(甲南)空調室外機ユニット交換工事(信楽)		A	2. 「案内表示の改善」の全館統一サインを分かりやすくすること。	

サービス計画に基づく事業体系	評価の指標	実績(H29)	実績(H30)	実績(R1)	目標(R5)	自己評価	図書館協議会委員の意見	外部評価
(3) まちづくりを支援し、市民とともに歩む図書館								
①協働事業の提案と市民参加の促進						B	1. 図書館ボランティアの団体数と人数が飛躍的に伸びているのは、評価で	B
1. 協働事業の実施	ボランティア活動回数	127回	156回	311回	140回	A	きる。今後も次の世代に引き継がれるようにPRしてほしい。また、ボラ	
2. 図書館ボランティアの育成		ボランティア交流会、新規ボランティア募集	新規ボランティア3団体 17名/27回	新規ボランティア8団体 26名/160回		A	ンティア交流会など情報交換の場を検討いただきたい。	
3. 市民アンケートの実施		来館者アンケート実施	未実施	未実施		D	2. 市民アンケートを計画的に実施し、今後の計画や施策に反映されたい。	
②庁内各機関との連携						B	1. 「庁内各機関との連携」については、庁内の機関にアンケートやヒアリ	B
1. 他課との連携事業の拡大	実施連携事業数	27回	30回	45回	40回	A	ングを行い、図書館と庁内各機関が協力できる事業を把握されたい。	
2. 行政資料収集の協力体制づくり		広報課より録音CDの提供	広報課より録音CDの提供	広報課より録音CDの提供		B		
3. 行政サービスの課題解決に役立つ資料の収集・提供		市のポータルシステムを利用した 情報提供	北村基金を市の課題解決に役立 つ資料収集に充当	北村基金を市の課題解決に役立 つ資料収集に充当		C		
③市民のニーズに応えることのできる図書館職員へのレベルアップ						B	1. 「研修への計画的な参加」の指標は参加研修数となっている。参加研修	B
1. 研修への計画的な参加	参加研修数	8回	10回	7回	12回	C	数では評価が難しいので、指標を参加延べ人数などに変更されたい。	
2. 職場内での専門研修の実施	職場内研修実施数	2回(雑誌登録者研修、ブックト ム研修)	2回(雑誌登録者研修、新システ ム操作研修)	3回(雑誌登録者研修・レファレン ス研修)		B	2. 「図書館利用者の声を拾う環境づくり」は内部評価ではCであり、カウ	
3. 図書館利用者の声を拾う環境づくり		カウンターワーク・フロアワーク	カウンターワーク・フロアワーク	カウンターワーク・フロアワーク		C	ンターワーク・フロアワークと書いてあるだけである。利用者の声を拾う	
4. 図書館サービスが効率的・効果的に行われているかの検証	図書館評価の実施	図書館外部評価	来年度計画会議、有効で効率的 な運営形態検討会議	来年度計画会議		B	環境づくりの課題を明確にされたい。	
(4) 子どもたちの豊かな心と生きる力をはぐくむ図書館								
①子どもたちの読書環境の充実						B	1. 「児童書の計画的な収集」と「子育て世代への支援」については、とも	B
1. 児童書の計画的な収集	蔵書に対する児童書の割合	28.8%	28.9%	29.4%	30.0%	B	に内部評価がBであるが、蔵書に対する児童書の割合、子育て関連分	
2. 児童サービスの拡大	児童向け行事の参加者数(回数)	165回	144回	1,457人	1,800人	B	野の蔵書冊数ともに目標値に近い値となっており、A評価と考える。	
3. ヤングアダルトサービスの充実		YAコーナー、成人式ブックリスト 配布、YA通信2回刊行	YAコーナー、成人式ブックリスト 配布、YA通信3回刊行	YAコーナー、成人式ブックリスト 配布、YA通信4回刊行		B	2. 「小・中学校との連携」については、関係課、学校職員、学校司書など	
4. 小・中学校との連携	学校への団体貸出冊数	10,500冊	27,124冊	11,186冊	12,600冊	B	と図書館との連携をしっかりと行うこと。	
	社会見学・職場体験受入れ回数	社会見学8回 職場体験受入れ回数8回	社会見学8回 職場体験受入れ回数8回	社会見学7回 職場体験受入れ回数5回				
5. 学習支援パックの利用促進	学習支援パックの利用状況	23回	18回	20回		B		
6. 子育て世代への支援	子育て関連分野の蔵書冊数	17,374冊	17,563冊	17,425冊	17,800冊	B		